

学習コンジェルジェ 活動成果報告

2010年1月17日（月）
東京女子大学
人間科学研究科博士後期課程2年
中妻 結

報告の概要

1. 活動内容報告
2. 3年間のプロセス
3. 活動を通しての成果
～学習コンシェルジュの立場から

学習コンシェルジュとは・・・

大学院学生で構成された
学部学生の学習サポートをする
学生アシスタント制度のひとつ

活動内容

アシスタント・アイランドでの通常業務

- ・各学習コンシェルジェ週1～2コマを担当。
- ・学部生の学習に関する相談に乗り、助言を行う。
- ・相談内容は、授業に関する質問、文献検索の仕方、レポートの書き方、卒論に関する質問、など多岐にわたる。

情報検索ガイダンス（2009年度から実施）

- ・図書館利用の核となる検索方法について紹介する。デモンストレーションと実習（90分）。
- ・1年生－OPACなどの基礎的な検索
- ・上級生－卒論用の情報検索オンラインデータベースの活用法。

基本的なレポートの書き方ガイダンス（2009年度から実施）

- ・学習コンシェルジェのマニュアルを用いて作成したパワーポイント資料と配布資料を用いて、基本的なレポートの書き方をガイダンスする（90分）。

3年間の活動のプロセス

2008年度

利用者が少なく、工夫の必要性を痛感

学生アシスタント制度の初年度であり、学部生に活動が浸透していなかった。



曜日ごとの常駐する学習コンシェルジュの専門分野を記した表を掲示。

利用しやすくするための工夫のきっかけに。

2009年度

成果

- 初年度に比べ、利用者数が飛躍的に伸びた。
- 質問内容も初歩的なものから専門的な内容まで多岐にわたるようになった。

質問内容例

- 序論の書き方。レポートの中の引用の分量について。
- 大学院入試について。
- 卒論の内容が不安で進まない。
- OEDの使い方。データベースで調べたい先行研究を検索できない。
- 英語のエッセイを書いているが、前置詞の使い方でわからないものがある。
- 他分野の専門的な質問や事務手続き等の質問は、それぞれの分野の学習コンシェルジュや大学内の該当部署へ引き継ぐ。

2009～2010年度に新たに導入した事

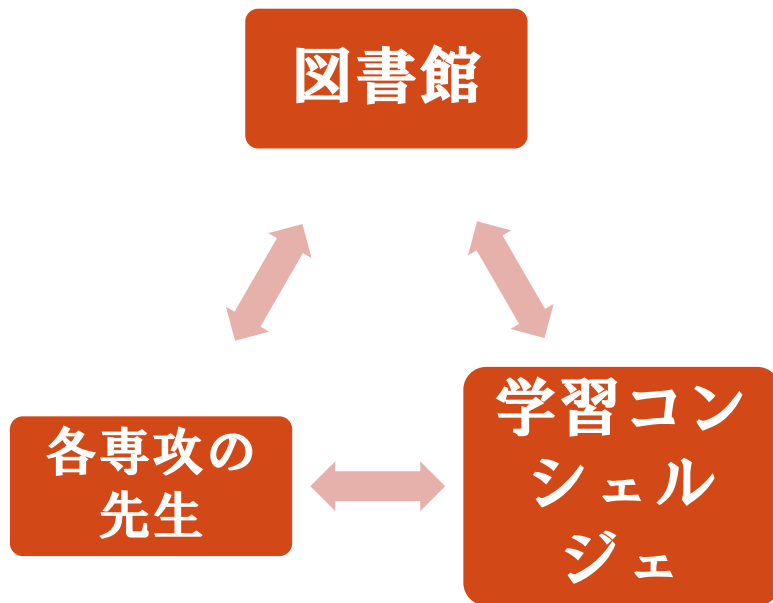
1. アシスタント・アイランドの定着。
2. 新入生オリエンテーションで学習コンシェルジュと学生アシスタント合同で図書館案内を含めたサポート体制の説明を行う。
3. 通年にわたって、各種ガイダンスをゼミ単位で依頼がある時に行う。その都度学習コンシェルジュやシステム・サポーターの宣伝を入れた。
4. TAとして勤務している授業の学生に学習コンシェルジュとしての立場も宣伝する。また、その都度先生にも協力していただく。
5. 座席の横に立て看板を設置して、質問内容例や自分の専門領域を記す。
6. 椅子の後ろに『論文の書き方』などの本を置き利用しやすくする。（システム・サポーターも同様。）

2010年度一試行錯誤の成果 . . .

- アシスタント・アイランドに座っている時に好奇心な目で見られることが全くなくなった。
- 気軽に立ち寄ってもらえる雰囲気になった。
- 相談者からは毎回感謝の言葉をいただき、利用する学部学生の学習サポートの一助になっていると実感できるようになった。

活動を通しての成果と効果 ～学習コンシェルジュの立場から

連携による 活動の活性化と利用者増加



- ・自分の知識を生かして役立てる一方で、相手に伝える作業をすることでその知識の整理をすることもでき、大学院での研究や論文の執筆に効果的に還元されている。
- ・2年間の活動を通して通常業務からは、相手の学年や学習程度に合わせて答える内容の取捨選択や言葉の使い方を学んだ。
- ・ガイダンスからは、効果的なプレゼンテーションの行い方や、多人数の前でレクチャーする時の自分の弱点や長所を知ることができた。